リアルタイム児童評価システムの発展と実践

― 3年間の実践の成果と課題 ―

長野県塩尻市立塩尻西小学校 教諭　河西　一樹
bkasai@shiojirinishi-e.ed.jp
Webサイト：http://www.shiojirinishi-e.ed.jp/arc/cec2005/index.htm
キーワード：形成的評価，ポートフォリオ，ＰＤＡ，ＡＳＰ，ネットワーク

１．　研究の概要とねらい

平成16年度（平成16年度Ｅスクエア･アドバンス「学校企画」）

教員が多様な学習形態で教えるようになってきた現在、担任だけでなく学校職員全員が連携を取り合いながら子どもを評価しその後の指導に生かすことが必要と考える。そこでＡＳＰ(Active Server pages)を使い、各職員が気づいた点をすぐその場でＰＤＡ（個人用の携帯情報端末）で入力しサーバのデータベースに登録するシステムを開発してきた。（図参照）

このシステムでは職員が直接子どもの様子を文字で入力するほか教科や場所や対応する指導要領の項目や目標などをワンタッチで入力できる。そしてデータベースに蓄積された情報を系統的に分析してその後の指導に生かすことができると考え実践を行ってきた。

平成17年度（平成17年度Ｅスクエア･エボリューション「学校企画」）

システムの利用者それぞれが必要とする情報を柔軟に供給できないという課題が残った。その改善を図ると共に、蓄積された評価情報の分析機能、児童の指導について検討できる掲示板などを追加しさらに使いやすいシステムに発展させてきた。

平成18年度

システムの継続的利用をしている。総合的活動の時間の進行状況を段階的に入力し支援の材料としての利用をしている。

システムの本校以外の学校での試行を開始。利用者の意見からシステムの改良を行っていく予定。（平成１９年１月から）

２．　研究の内容

平成16年度～平成18年度を通して

① ＰＤＡ（小型の情報端末）やパソコンからホームページを通じて子どもの教科活動、生活の様子などを個人別に入力する。

② 蓄積された情報を元に連携して児童への支援するときの参考にする。また、通知表や保護者懇談、要録作成時の資料にする。

平成17年度

③ 利用者の意見感想を下にシステムをより使いやすいものに改善していく、さらに子どもたちの評価の情報をより系統的に分析するために、「分析画面」を追加する。また、システムを介して、時間のない教員同士が情報交換できるよう「掲示板機能」追加していく。

平成18年度

④ このシステムを多くの人に知って利用してもらうために普及活動を行っている。（マニュアルの作成、ホームページでの紹介、研修会での発表）

企画組織

平成１６年度
蓄積データー数（2004年9月14日～2005年３月末まで）のべ１０２２件

平成１７年度
蓄積データー数（2005年9月～2006年３月末まで）のべ９４５件

平成１８年度
蓄積データー数（2006年9月～2007年1月末現在）のべ約８００件

図１：評価システム画面

３．　成果（○）と課題（●）

平成16年度

○ 多くの先生方による試用、及びデーターの蓄積、試行による感想意見
⇒システムの改善

企画開始直後、4学年と専科のみで始めた本企画であったが、その効果の良さが人づてに広がるにつれ「システムを利用してみたい。」という職員があり最終的には11名の職員に使っていただくことができた。システムを使った感想や意見をもとにより使いやすいシステムの改善の材料となった。

○個別の児童への入力、活用（少人数編成授業、個別に対応が必要な児童への対応）

高学年では国語算数の少人数編成授業、理科音楽の専科とクラスとして授業をすることは3分の1にも満たない、また時として、生徒指導の面から個別の対応をしていきたい児童も少なくない。担任はそのような児童の情報をシステムに登録することで他の職員に知らせることができる。他の職員はその登録情報を閲覧することで、それらの児童への指導へと生かすことができた。

●ＰＤＡであるとすぐに起動入力ができるが､評価情報の入力が文字情報を主体としたものであり，ＰＤＡでは慣れが必要であった。ＰＤＡにおける入力形態の改善が必要。⇒反面、Ｗｅｂページを見ることのできるパソコンであれば特別なソフトも必要なく利用できるので、その面で使い勝手が広がり利用したいと申し出た先生方も多くいた。

●使う職員によって、必要とする情報の形態が違う、その職員のニーズに応じた形態の情報を供給できる柔軟なシステムの必要性を感じる。⇒意見を取り入れながら今後も随時システムの改善をしていきたい。

平成 17 年度

○多くの先生方による試用、及びデーターの蓄積、試行による感想意見⇒システムの改善機能の追加

①入力の簡略化

ＰＤＡやパソコンを使っている時、繰り返しの作業は面倒で、多くの情報を入力する時などの妨げになる。そこで、何度も使う共通の部分は、定型文を用意し入力できるようにした。

また、子どもの氏名選択も、子どもの学籍番号を用いていたが、クリック一つでできるようになった。

②集計画面の追加

入力した情報がどれくらいたまっているのか蓄積しているかを見て、その児童の良さが現れる場面と行動の傾向を探ることができるよう、入力した情報の集計画面を用意した。また、この画面は教師自身の評価の仕方を客観的に振り返ることができる。

③簡易掲示板機能の追加

入力された情報をもとに、意見交換ができる掲示板機能を追加した。教員間のちょっとした連絡にも使うことができる。

○通知表、懇談会資料への評価情報の利用

蓄積された評価情報を、通知表や保護者懇談会の資料として活用することができた。今まで、担任が知りえない児童の姿や、客観的な第三者からの見解を知らせることができた。

○システム利用者、保護者へのアンケートを実施（その結果から）

「担任だけでは見落としてしまう点も、他の教師により評価してもらえてうれしい。」

「治すべきところがある場合､「どうしたらよいか」という対策も記してあったのでわかりやすかった｡色々な先生の目から見た子どもの様子がわかった。担任の目が届かないところを他の先生が見ているという安心感がある。その反面、みんなに見られることにより息が抜けないのでは｡」

○システムをより多くの人に使ってもらうための工夫

システムの便利さを多くの人にわかってもらい、利用していただけるようにホームページを公開し機能や使い方を公開した。また、使い始めた後、操作がわからなくなった時のためにマニュアルの作成し、配布した。

● 評価を集め集計して結果を見ることはできるようになったが、それを場面や行動、教科の観点や分野などで分類していくことは不十分である。分類項目を検討していきたい。

● 評価の方法は、教員によって独自のものが多く、まだ、学校内の全ての先生に使っていただける状況ではない。このシステムを、学校内で多くの人に使っていただけるように、更なる普及宣伝活動を行って行きたい。

● このシステムでは、音声やデジカメの画像、動画などを評価情報に貼り付けることができる。今後はそれを積み重ねることで子どものより具体的な評価ができるのではないかと考える。（図２参照）

平成 18 年度

○今年度は、システムをより使いやすくするための改良をしながら、6学年を中心としての利用を行っている。

○今年度は総合的な学習の時間の個別の追究活動を行っていく場面で、個々の児童の進行状況と支援の仕方について段階的に入力をして、今後の支援の参考にしている。

○また、郡内での研修会での発表を見た松本市の小学校から「システムを使ってみたい」との申し入れを受け、平成 19 年 1 月に試験的に導入。利用を始めている。

図 2：評価情報に動画を添付